

2022年7月30日

幸せになるための教育を実現するために

委員長 鈴木雅貴

昨今、「楽しいこと」より「大変なこと」という表現の方がよく使われるようになったと感じます。いつの時代から子育ては大変なこととなったのか？

それは、子供の自由で幸せになるという可能性よりも、（衰退している日本の幸福度や経済などにもかかわらず）社会に適した人材の育成という枠にはめようとして、いい子に育てなければいけないというしがらみのようなもの結果なのではないでしょうか。

幸せは他人から押し付けるものではなく人それぞれが決めるものです。知らないあいだに親や均一的教育機会の提供などのしがらみや社会的価値観の枠にはめられて、幸せを自分で決めることが見失われているように思います。今こそそんな枠を打ち破り、新しい地域や日本社会を作り上げる必要があるからからこそ、幸せについて考える教育の実現が必要です。

幸せを感じる人を増やすために学校教育だけでなく、親や地域など子供の幸せを願う全ての人が担う役割は、幸せということを定義して教えていくことではありません。多様化する今の社会と未来を見据えて、個人と社会の幸せを自らの力で考え、実現していける子供たちを育成していくことです。自分の幸せは人から教えてもらうというよりも自分自身の将来を見据え、夢や目標を持つことの大切さを学び、自分の存在が利己的でなく、他者との比較によって判断するのではなく、いかに自分の幸せ実現と自分に関わる全ての人々の幸せについて考えながら自己実現できる力を積み上げていくことです。

教育の基本方針やあり方などは既に方向性として、「自立した考え」や「幸せになる」という趣旨のことも記述されてきています。多様化する社会において、変化することの重要性も発信されつつあります。そこで、半田市として、どの自治体よりも早くいかにこれからの教育の重要性と変革にむけて取り組むことで、将来性ある地域の実現と日本の社会に対する先見の実例となるような先進的教育改革に取り組み、廃止すべきことは廃止し、変革すべきは変革し、全ては子供の成長のために、大人自身も幸せになり、教える側が幸せと夢を発信しながら子供の笑顔と成長を今まで以上に大事なやりがいと実感できるように教育に取り組んでいくことが必要です。